

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2370700573		
法人名	株式会社パシフィック		
事業所名	グループホームまりん		
所在地	名古屋市昭和区恵方町1-35 パックス恵方3・4階		
自己評価作成日	平成22年 1月10日	評価結果市町村受理日	平成22年8月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-kouhyou-aichi.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2370700573&amp;SCD=320">http://www.kaigo-kouhyou-aichi.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2370700573&amp;SCD=320</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	有限会社 TMCサポート
所在地	愛知県名古屋市長和区鶴舞3-8-10 愛知労働文化センター3F
訪問調査日	1月18日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

少人数の特徴を生かして過程に近い、くつろいだ雰囲気を作っています。母体となっている株式会社パシフィックは、幼児教室も経営している為、幼児教室の催し物等があると、子供たちより招待状が届き、参加することによりとても楽しい時間を過ごすことができます。また、年間行事の中で何回かご家族の方々も招待をし、バーベキューや懐石料理風に食事会を行う等し、ご家族と利用者様、またご家族と職員との関係を築くことでグループホームまりんがひとつの家族のような関係作りに取り組んでいます。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

テナントビルの3F、4Fにの旧住宅をリフォームしたホームである。外観からは想像できないほど、ホーム内は家庭的で温かい雰囲気であふれていた。その中で、職員と利用者が笑顔で楽しみながら生活をしている。今回実施をした家族アンケートの結果からは職員の親身な対応や利用者への適切な対応等非常に満足度の高い結果となっており、職員のそういった姿勢がホームの雰囲気を作っているのであろう。法人は昭和区に地域密着型サービス事業所を2か所運営しており、更に今年度小規模多機能型居宅介護事業所の「ケアホームまりん」がオープンとなる。今後も地域に根差した活動を継続していただき、更なる取り組みの充実に期待するところである。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念は『一人ひとりに合った、その人らしい生活を営んでいただく』として、一人一人の尊厳を守りながら、家庭的な環境作り心がけている。また月1回の担当者会議を通し、一人一人に合った生活を職員全員で考えている。	家庭的でくつろいだ雰囲気作りを大切に「その人らしく」生活するための支援に取り組んでいる。また、職員は理念を共有し実践に向けて取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、町内で行われる敬老会や運動会に参加している。また、近所の小・中学校や専門学校のもよう催し者に積極的に参加している。	日常的な外出での買い物や積極的に地域行事に参加をし、ホームが地域に根差した存在になるよう地域住民への理解を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	直接的な取り組みは行っていないが、町内会等の行事に参加した際に、近所の方々の認知症についての相談は受けることがある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議での意見は、職員に申し送りや会議の際に話しをし、少しでもサービスの向上につなげられるようにしている。	3か月に1度運営推進会議を実施している。会議には、家族・元医師等の参加があり、ホームの取り組みの状況や様々な意見・要望の話し合いの場となっている。	行政担当・地域包括支援センターへの運営推進会議への参加の呼び掛けの継続的な実施と、現在3か月に1度の開催のところを2ヶ月に1回の開催に向け参加者への呼び掛けの実施を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区役所の担当の方とは、積極的に連絡を取っている。また、地域包括支援センターの推進会議に参加しサービスの向上に向け話し合いがもたれている。	行政担当とは、日常的に係ることで密接な関係作りを目指している。また、生活保護の利用者の受け入れ等様々な事例に対応できるように連絡体制を確立している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠に関しては、他の事業者と出入り口を共有している為と安全確保のため施錠しているが、その他の身体拘束に関しては行わないケアを心がけている。	管理者・職員は身体拘束の弊害をしっかりと理解をし、利用者が自由に生活することができるように身体拘束排除の取り組みを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員ではないものの、虐待に関する研修に参加をし学ぶ機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は、活用している方はいないが、以前はいらっしやった為、一部職員に関しては、多少の知識はある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、管理者が契約書と重要事項説明書を基本とし読み合わせを行い、また、それについての説明を行い、質問等に答えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の方に関しては、日々の会話より。ご家族に関しては、面会の際または、家族会等で意見を聞く機会を持っている。	家族来所時には、家族に対し声か掛けを行って疑問や要望の聞き取りに努めている。また、ホームの活動の理解を深めるべく「まりんだより」を発行し配布をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が日常より行っている。管理者が受け、代表者に申し送り、また代表者と管理者の会議の場で話しをしている。	管理者は、職員からの意見・要望を受け止め、検討する機会を設け、職員が意見・要望を出しやすい環境となるよう配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々の中で管理者が把握をし代表者に報告している。また、環境に関しては会議の場で話し合いをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外の研修に関して、会議の場で資料を提示している。また、一人一人に合った研修内容を管理者より推薦している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入をし、他の施設との交流やまたは研修に参加している。その場でいいと思うことに関しては、実行できるように環境を整える努力はしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コーヒーの時間やおやつの際に意見を聞き担当者会議の場で話し合いをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会の際にご家族の要望等を聞く機会を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とご家族との話を聞き、またカンファレンスや担当者会議で職員間での話し合いを行い、必要とする他のサービスの利用を検討している。(現在では、マッサージの利用等)		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者に対し家族のような関係を築けるよう努めている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に対しても、職員と家族のような関係を築けるようにつとめている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設での行事に、声掛けにてお誘いすることがある。また、いつでも面会が出来るように面会時間の設定をしていない。	利用者の生活歴や趣味等を把握・面会にきやすい雰囲気作りへの配慮等馴染みの人や場との関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者同士の関係に関しては理解している。入居者の方に対し日々の声掛けにて、入居者の輪の中で楽しく生活していただけるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設行事に関し、元入居者のご家族にも招待状を送っている。また面会に行ったり、電話等で相談支援を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々お会話より、ご本人の意見、希望の聞き入れは行っている。内容に関しては、担当者会議やカンファレンスにて話し合い検討している。	一人ひとりの思いや意向を大切にし、日々の生活の何気ない言葉や表情から利用者の希望・要望をくみ取り、利用者本位に考え日々の支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前には独居されていた方が多く、詳細なことは不明なことが多いが、ご本人との日々の話しより入所してから少しずつ把握していけるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員一人ひとりが日々の様子を観察し、状態の把握に努めている。また、申し送り等で、職員間で情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人とは、日々の会話にて意見を聞くようにしている。またご家族に関しても、面会の際に状態の報告等を行い、ご家族の希望も聞き入れ、カンファレンスの場で話し合い、反映している。	定期的を実施するカンファレンスにより介護の更新が検討されており、利用者の状況が変化した時にはその都度介護計画が検討され、常に適切な支援が提供できるように努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子やケアプランに関しては、毎日個別のカルテに記入している。また、申し送り、担当者会議、カンファレンス等意見を共有する場を多くし、見直しを行うようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	提携病院以外の病院への受診の付き添い等、ご家族の状況や希望に沿えるような支援を行うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人とご家族の希望を聞き、かかりつけ病院への受診へ同行し、日常の状況等を適切に伝え、指示を仰ぎ、適切な医療を受けられるように支援する努力をしている。	利用者・家族の要望に応じた医療機関で健康管理を行い、利用者に対し適切な医療を受けられる支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的に観察をし、何か気付くことがあれば、看護師や往診医へ相談をし適切な受診を行えるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、ご家族の情報や面会の際に担当医より話を聞き、退院後の施設での受け入れ態勢を作るように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者が重度化した場合の対応及び見取りの指針を契約時に書面上にて説明している。また、そのような場合になった際には、ご家族との話し合いの場を設けるようにしている。	早期から重度化・終末期に関して話し合いの場を持ち、利用者・家族・医師・職員が連携をとり利用者にとって一番良い方法を考え支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的とはいえないが、職員が順次研修を受けられるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員は、避難訓練等を行い理解を行っている。しかし、地域との協力体制に関しては出来ていない。	定期的に消防訓練を行い、防災に対する職員の意識の統一を図り、災害時には利用者を迅速に避難誘導できるよう訓練を実施している。	今後も継続的に避難訓練を実施すると共に、夜間想定等様々な想定での実施をすることで、更なる意識の向上を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉掛けに関しては、気をつけている。	利用者に対し不適切な対応とならないよう、日々の申し送りを通じ職員に伝えている。職員一人ひとりも利用者に対しプライバシーを損ねる声かけにならないよう、互いに注意しあい、不適切な対応にならないよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いや希望を主張できる環境を作り、自己決定できるように言葉掛けをするように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り、希望に沿った生活を送れるように支援には努めているが、一人一人に合ったペースには出来ていないことがある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望の化粧水等、こだわりがある方に関しては一緒に買い物に行く等の支援はしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	簡単な作業(切る、混ぜる等)は出来る方に関しては行っていただけるように声掛けをしている。また、出来ない方に関しても、味見等。片付けに関しては一部の入居者の方が率先してやっていただける。	利用者一人ひとりの力を見極め、できることに関しては主体的に取り組み、利用者にとって食が楽しみになるように努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状態に応じて大まかな水分量のチェックはしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者全員、毎食後の口腔ケアを行っている。また、週に1回の歯科衛生士によるケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意が曖昧なかな等に関して、定期的なトイレ誘導を行えるように排尿チェック表をつけまた、トイレ誘導も行っている。	職員間において、利用者一人ひとりの排泄パターンを「トイレチェック表」において把握し、尿意、便意を自ら判断する事が難しい利用者は、トイレまで誘導し、自立に向けた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤の使用や便秘がちな方に関しては水分を多く摂っていただくようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴に関しては、体調に配慮をし基本的に毎日入っていただけるようになっているが、その方一人一人に合ったタイミングかは不明。	利用者の様子や体調で入浴の可否を判断し、利用者にとって入浴が楽しみとなるように配慮をしながら実施をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人に対し、支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の詳細までは理解されているとはいえないが、おおまかには理解されている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常の中で役割を持っていただくことに関して職員は支援することに努めている。また、外出や行事等、気分転換等も行えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限り、希望に沿った支援を行えるように努めているが、一人ひとりに合ったものとはいえない。普段いけないような場所へはご家族にも理解と協力をしていただき行えるように努めている。	出来る限り日常的に外出する機会を設け散歩・買い物等利用者一人ひとりに合わせた個別支援を目標に取り組みを行っている。また、家族と協力を要請し様々なニーズに対応をしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の方に関しては、小額の金銭はご自身で管理されているものの、ほとんどが施設の金庫管理となっている。近所に買い物に行く際に、支払いをしていただくこともあり。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の使用に関しては、基本的に希望時はしていただくことは可能。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関はその季節に合った飾りを入居者の方と共に行う。また、壁画に関しても入居者と共に作っている。	利用者が集う共有空間は、季節感が感じられるように装飾等工夫している。また、外観からは想像できないほど家庭的な雰囲気である。訪問調査当日も利用者と職員が共に談笑しながらリラックスした様子を見ることができた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	場所の広さの問題で、共用の場所で一人になれる空間を作ることが難しい。気の合った入居者の方は思い思いの場所にて、コミュニケーションをとっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的には、入居の際には今まで使い慣れている家具を持ち込んでいただくようにしている。	居室内においては、利用者、家族の要望に応じて、家具等の配置を決めるほか、これまで使い慣れた物の持ち込みを可能とし、居心地良く快適に暮らせるよう本人の状態に合わせた居室となるように配慮をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	例:個々の歯ブラシ等に名前をわかりやすく書いたり、色を一定の色にすることで口腔ケアの自立や自分のものに関する適切な認識が来ている。		

### 外部評価軽減要件確認票

【重点項目への取組状況】

重点項目①	事業所と地域とのつきあい（外部評価項目：2）	評価
	日常的な外出での買い物や積極的に地域行事に参加をし、ホームが地域に根差した存在になるよう地域住民への理解を深めている。	○
重点項目②	運営推進会議を活かした取組み（外部評価項目：3）	評価
	3ヵ月に1度運営推進会議を実施している。会議には、家族・元医師等の参加があり、ホームの取り組みの状況や様々な意見・要望の話し合いの場となっている。	
重点項目③	市町村との連携（外部評価項目：4）	評価
	行政担当とは、日常的に係ることで密接な関係作りを目指している。また、生活保護の利用者の受け入れ等様々な事例に対応できるように連絡体制を確立している。	○
重点項目④	運営に関する利用者、家族等意見の反映（外部評価項目：6）	評価
	家族来所時には、家族に対し声か掛けを行って疑問や要望の聞き取りに努めている。また、ホームの活動の理解を深めるべく「まりんだより」を発行し配布をしている。	○
重点項目⑤	その他軽減措置要件	評価
	○「自己評価及び外部評価」及び「目標達成計画」を市町村に提出している。	○
	○運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されている。	
	○運営推進会議に市町村職員等が必ず出席している。	
総合評価		

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

テナントビルの3F、4Fに旧住宅をリフォームしたホームである。外観からは想像できないほど、ホーム内は家庭的で温かい雰囲気であふれていた。その中で、職員と利用者が笑顔で楽しみながら生活をしている。今回実施をした家族アンケートの結果からは職員の親身な対応や利用者への適切な対応等非常に満足度の高い結果となっており、職員のそういった姿勢がホームの雰囲気を作っているのであろう。法人は昭和区に地域密着型サービス事業所を2か所運営しており、更に今年度小規模多機能型居宅介護事業所の「ケアホームまりん」がオープンとなる。今後も地域に根差した活動を継続していただき、更なる取り組みの充実に期待するところである。

1. 外部評価軽減要件

- ① 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」及び「2 目標達成計画」を市町村に提出していること。
- ② 運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されていること。
- ③ 運営推進会議に、事業所の存する市町村職員又は地域包括支援センターの職員が必ず出席していること。
- ④ 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」のうち、外部評価項目の2、3、4、6の実践状況（外部評価）が適切であること。

2. 外部評価軽減要件④における県の考え方について

外部評価項目2、3、4については1つ以上、外部評価項目6については2つ以上の取り組みがなされ、その事実が確認（記録、写真等）できること。

外部評価項目	確認事項
	(例示)
2. 事業所と地域のつきあい	① 自治会、老人クラブ、婦人会、子ども会、保育園、幼稚園、小学校、消防団などの地域に密着した団体との交流会を実施している。 ② 地域住民を対象とした講習会を開催若しくはその講習会の講師を派遣し、認知症への理解を深めてもらう活動を行っている。
	(例示)
3. 運営推進会議を活かした取組み	① 運営基準第85条の規定どおりに運用されている。 ② 運営推進会議で出された意見等について、実現に向けた取組みを行っている。
	(例示)
4. 市町村との連携	① 運営推進会議以外に定期的な情報交換等を行っている。 ② 市町村主催のイベント、又は、介護関係の講習会等に参画している。
	(例示)
6. 運営に関する利用者、家族等意見の反映	① 家族会を定期的（年2回以上）に開催している。 ② 利用者若しくは家族の苦情、要望等を施設として受け止める仕組みがあり、その改善等に努めている。 ③ 家族向けのホーム便り等が定期的（年2回以上）に発行されている。

(注) 要件の確認については、地域密着型サービス外部評価機関の外部評価員が事実確認を行う。